



# つながり

奈良県立ろう学校 特別支援部  
2021年 10月号

2学期がスタートし、1ヶ月がたちました。各校でもコロナ対策の工夫を行いながら、運動会等の行事に向けて取り組まれているのではないのでしょうか。

さて、夏休み中に本校で実施しました担当者研究会にご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。以下に研修会の様子とアンケート結果をまとめさせていただきましたので、どうぞご覧ください。

## 第2回聴覚障害教育担当者研究会

講演「地域で学ぶ聞こえにくい子どもたちへの支援において大切なこと」

講師:京都府立聾学校校長 芦田雅哉先生

### 【研究会の様子】

8月4日(水)に担当者研究会が行われ、地域の学校からは16名の先生に参加していただきました。第一部では京都府立聾学校校長、元舞鶴分校通級指導教室担当の芦田雅哉先生をお招きして講演会を行いました。聴覚に障害をもつ児童生徒の支援について教員側が心にとめておくべきことや、誰もが共に生きやすい社会の実現を目指して環境・仕組み作りを築いていくことの大切さについて丁寧にお話しして下さいました。芦田先生のあたたかいお人柄が伝わるエピソードもたくさんあり、惹き込まれるような話し方にあつという間に時間がたつのを忘れていくようなひとときでした。

第二部では現在担当している児童生徒への支援について感じていることや悩んでいることなどの情報交換会を行いました。他校の取り組みを互いに知ることが出来て有意義な話し合いができたのではないかと思います。今後も県のセンター校として、聴覚障害関係者同士のつながりを大切にしていきたいです。



アンケートでは第一部、第二部ともとても有意義な時間を過ごせたとの声が多くありました。コロナ感染症の影響がまだまだ残る中の開催でしたが、無事開催できましたことを嬉しく思います。また、参加いただいた先生方には心から感謝を申し上げます。今後も、有意義な時間が過ごせますよう、工夫を試みながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

### 【アンケートまとめ】

#### ① 講演を聞いて

#### 【言葉の入力について】

○「伝わる」という話の中での「入力障害」の支援を丁寧に行う大切さというところがとても心に残りました。「記憶」や「学力をつける」ということを、それぞれ「覚える→保つ→思い出す」「伝わる→わかる→考える」と、段階的に提示していただき、それぞれに対しての支援の手立ての大切さに改めて気付きました。本日はありがとうございました。

情報共有させていただくため、一部掲載いたします。すべて載せられないのが残念です。たくさんお寄せいただき、本当にありがとうございました。

→裏面へ続きます

## 【障がいの捉え方について】



○「障害はなくなるんだよ」という話が頭にとても残っています。障害は子ども自身が抱えているものという考え方があったので、社会モデルの考え方から周りの人からの理解や支援によって障害はなくせるという考え方はとても素晴らしいと感じました。担当している児童の理解が広がるように、その児童と共に困り感や聞こえにくさについて説明していきたいと考えました。

○「教師自身が違いを認め、許容する姿勢を示す」この一言に教員としての必要な心構えがあると感じます。教師1人が支援するのではなく、クラスにいる他の数十人の協力も得ながら、その子にとっての障害をなくすことが大切だと思いました。



## 【子どもへの関わり方や教員としての心構えについて】

○きこえの検査結果を、まず子どもに伝えるという話がすべてを物語っています。子ども中心を心がけたいです。

○今、小学校で指導に困難をかかえる子どもたちが数多く存在しています。今、多くの課題に直面している小学校で子どもたちに対してどのように向き合っていくかというヒントをいただいたと思います。単に「聴覚障害教育」として考えるのではなく、子どもと関わるとはどういうことかを改めて考えました。

○自分なりに色々と考えながらやっても、うまくいかないことも多いですが、もう一度子どものことをよく見て、つぶやきやその子の成長を見逃さずに関わっていきたくと思いました。支援する力を高め、主体的に問題解決していくことができるよう今後も他の先生方の話をきいたり相談したりしながらやっていきたいと思っています。

○教員としての「姿勢(マインド)」をたくさん学ばせていただくことができ、有難く思っています。子どもたちとしっかり対話すること、子どもたちが自己理解を深められるように努めていくこと、そして障害を取り除くために、だれもが共に生きやすい社会の実現を目指して環境・仕組みにみんなで気付いていくことなど、今後しっかりと活かしていきたいです。

○重度の重複障害の子どもを担当していますが、どの子にとっても大事にしてあげたいし、自分も気をつけていかなければならないことを改めて確認することができました。



## ②情報交換会に参加して

○子どもたちからアイデアが出るような障害理解授業を進めていくことが大切。

○高学年になればなるほど、難聴だからと言ってどんどん心に入っていくことは、難聴ではなくても嫌がることであり、どこまで入って良いかを考えながら行動しないといけないということが勉強になりました。

○各校の実践、芦田先生に直に質問をすることができ、充実した時間でした。こういった時間に悩みの共有ができるとうれしく思いました。

○他の学校でのきこえにくい子どもさんの様子を知ることができ良かったです。自分の学級にいる子は今は困っていることも周りやお家の方には言えてるようだけど、年齢が上がるにつれ、口にしにくくなることも考えられるかなと分かりました。自分のやり方が合っているのかなと相談する人がいなかったので、お話を聞いてよかったなと思います。

○それぞれの先生の取り組みと考えを共有でき、とても良かったです。中でも、高学年の児童との関わり方で適度に折り合いをつけるというお話が出たとき、自分でもまだまだ直さなければならないことがあると感じました。

○色々なお子さんの話や学校での取り組みを聞いて良かったです。話を聞いていて、指導者の思いややり方を優先するのではなく本人の思いや保護者の願いをよく聞き、話をする、アセスメントの大切さ、どこで折り合いをつけるかを大事にしていきたいと思いました。ありがとうございました。

○学級全体(周りの子どもたちへ)の聴覚障害についての理解学習や成長にともない変化していく子どもと対話し寄り添う支援方法を多く知ることができました。

○いろいろなアイデアに結びつく話ができとても良かったです。定期的に使いたいです。



研修等で得た情報などが、きこえにくい子どもたちの支援や関わり方の参考になれば、これほど嬉しいことはありません。ぜひ聴覚障害教育の関わる皆様で力を合わせて、一緒に考えていけたらと考えています。

来年度の研修の持ち方や支援のあり方についてもご意見もいただくことができましたので、ぜひ参考にさせていただきます。ありがとうございます。